

RPJ News

2017年 4月号

特定非営利活動法人(NPO法人)

精神保健福祉交流促進協会 Refresh Project

〒130-0001 東京都墨田区吾妻橋二丁目

毎月1回発行 E-mail ref-pj@mx5.ttcn.ne.jp

発行責任者：志井田美幸/ 長野敏宏/ 仁木守

連絡先 090-1811-7119

ホームページ <http://www2.ttcn.ne.jp/ref-pj/>

内 容

* 理事長就任にあたり

～歴史をつなぐ役割として～

精神保健福祉交流促進協会 理事長 長野 敏宏

* 事務局からのお知らせ

* 理事長就任にあたり

～歴史をつなぐ役割として～

精神保健福祉交流促進協会 理事長 長野 敏宏

このたび、精神保健福祉交流促進協会の理事長を、仁木美知子さんから引き継がせていただきました。基本的に、これまでの流れを大切に、特に「初代理事長谷中輝雄さんが何をしようとしていたのか」ということに想いを馳せながら、皆さんと運営していきたいと思っています。よろしくお願いたします。理事長就任にあたり、私自身が協会をどう考えてきたか、今、どう考えているか、また、日本の精神保健福祉に関する課題意識などを書かせていただきます。

○協会との出会い

やどかりの里研修センターで開催された、2000年2月ヴィレッジセミナーのプレ研修が、出会いの場でした。私は、谷中さんがつくられていた「やどかりの里研修センター」が、協会の原型であり、コンセプトだと思っています。当時は、精神保健福祉士の

国家資格化や地域生活支援センターなどの制度化がなされたばかりで、ほとんどの福祉職は精神科病院の中で働いていました。少しずつ地域の中に出始めた方もいましたが、現場では、理想と現実が乖離し、志があっても大きな壁に次々とぶつかっていました。また、それぞれの近くでは仲間にも出会えない状況と言っても過言ではありませんでした。そのような環境で、精神保健福祉に関



2000年ヴィレッジセミナー
写真上：ヴィレッジ玄関
右上：研修風景
右中：食事風景
右下：宿舎での振り返り



わる人がバーンアウトし、転職したり、場合によっては体調まで崩す方も目立ってきていたと思います。遅々として精神保健医療福祉の改革が進まない要因のひとつにもなっていました。その状況を少しでも改善しようと研修センターがつけられたと理解しています。同じ方向を見ている仲間が、やどかりの里研修センターに、各地の手土産やお酒をもって集い、学び、語り合うことで、方向性を再確認し、現場での活力を得ていたのだと思います。私自身にとっても、とても心地のよい空間で、充実した時間を過ごした覚えがあります。協会の大きな柱である「よく学び」「よく遊べ」はここが出発点で、バーンアウトしないためには、「力をつけて、仲間と壁をこえる」「遊びリフレッシュする」という両輪が必要だと教えられた気がしています。

○協会の立ち上げ

谷中さんがやどかりの里の会長職に退き、やどかりの里研修センター主催のヴィレッジセミナーが中止になりそうだということで、まずは、その受け皿が必要だと考えていました。「メンバーの自己決定」を徹底的に基本としながら、柔軟に、かつシステムチックに支援を創っているヴィレッジモデルから学ぶことは極めて多く、同様に考えていた様々な人の思いが重なり、ヴィレッジセミナーと国内でのリフレッシュセミナーを軸に、協会が立ち上がりました。事務局は、前理事長仁木美知子さんが中心になって担われ、ネットワークを拡げていられました。決して、有名な人が名を連ねるような派手な船出ではありませんでしたが、それがとてもよかったと思っています。

私自身も、御荘で、セミナーの同窓会を兼ねた「なんぐん夏季セミナー」を開催していたこともあり、当初から協会理事として参加させていただきました。

○その後、現在まで

全国各地で、各地の特性を活かし工夫された様々なセミナーが開催し続けられています。また、海外は、カナダ(トロント、バンクーバー)、イギリス、イタリアと活動は拡がりました。途中、事務局に仁木守さんの参画を得てからは、RPJ ニュースも欠かさず発行、書籍の製作・販売もしています。日本国内は、自立支援法の導入等、福祉にとっては大きな転換点を迎えました。医療においても、制度的には変化の多い期間でありましたが、協会としては、当初の方針からぶれず、もう少し遠い将来をしっかりと見据えたような活動展開であったと思います。谷中さんが亡くなられた後も、仁木美知子前理事長、仁木守事務局長お二人の大きな支えで、ここまでつながっています。

私自身にとっては、御荘地域の地域づくりの活動と共に、病床閉鎖まで精神科医療の構造を大きく変革させてきた激動の16年と重なりました。協会は、方向性を再確認する場で、上手くいかない時等どのような状況であっても変わらず迎えてくれる仲間がいる所でした。とても感謝しています。力のない無名精神科医を、「先生」ではなく「さん」付けで、若い時から全国のつながりを実感できる場においていただいていたことは、とてもとても大きなことであつたと、今更ながら実感しています。



2000年9月「なんぐん夏季セミナー」で講演される故谷中さんと質問をする若き日の私

○現在、日本の精神医療保健福祉、どう捉えているか

私は、平成 20 年から厚生労働省「今後の精神保健医療福祉のあり方等に関する検討会」を皮切りに、認知症ケアや就労、地域共生に至るまで、様々な政策づくりに参画させていただく機会を得てきました。また、イタリアやスウェーデンへの研修、御荘ローカルでの様々な実践、公益財団法人正光会の理事としての経営参画、ソーシャルビジネスとしての NPO 法人ハート in ハートなんぐん市場の立ち上げ・経営、医師や作業療法士の教育への関わり、三輪書店の作業療法ジャーナルの編集委員、など多様な経験を積ませていただいています。もちろん、20 年間の愛南町(旧御荘町)での生活がすべての基盤になっています。

そのような経験から、現在、日本の精神医療保健福祉を以下のようにみています。(これまで、ローカルの実践は語り、文章にしてきましたが、全体のことを書くのは初めてです。限られた文字数で、十分言い尽くせませんが、今後の議論につなげられたら幸いですので、誤解をおそれず表現してみます。)

★「ご本人」の立場から考えると、すべてが不十分…といわざるを得ない。決して自虐的になるつもりもなく、素晴らしい実践を重ねている地域があることも全く否定するつもりもないが、やはり、まだまだ…だと思う。「ご本人中心」本当に貫けているだろうか。貫こうとされているだろうか。自問自答も続けたい。

★「精神科医療」やはり病床や非自発入院が、結果として、多すぎる。訪問看護はじめ、地域生活の中での精神科医療も少しずつ増えてきたが、まだまだ例外的と言わざるを得ない。ただ、モデルとなりうるような「病院」の実践も増えているし、「診療所」の頑張りも成果を出し始めている。政策としても、医療改革がスタートはできる状況になりつつある。

しかし、あまりにこれまでに積み重ねてきた課題は大きい。大きな方向転換をしないと、国民から見放されるのではと危機感さえ持っている。

★「福祉」地域格差が大きくなってきた。自立支援法～総合支援法と、財源としても、様々な事業としても整いつつあるが、精神障害者福祉の視点からみると、先を見越した十分な活用ができているとはいえない。介護保険法の活用もまだまだ。さらに、制度(財源)に頼りすぎている感がぬぐえない。地域社会に、どう福祉的機能を統合していくか。現在ピークとも思える財源・資源を活用して、地域づくりを根本からすすめるべきではないだろうか。精神科医療において病床削減が必要になってきたが、福祉施設・資源削減も必ず必要になってくる。今、何をつくらなければならないのか、何をつくったらいけないのか、何をなくさないようにしなければならないのか、何をやめなければならないのか、分岐点にあるように感じている。

★「保健」とにかく弱い。福祉が充実し、医療が変わってくると「保健」の重要性がようやく浮き彫りになる。「予防」と「権利擁護」、私自身はこの二つが「保健」の重要な役割だと考えている。医療も、福祉も「保健」を創りだしていかなければならない。「医療」と「福祉」は必要最小限を目指したい、

といった感じでしょうか。すべてが「わが事」ですので、丁寧に実践を重ねたいと思います。

○協会の「これから」

冒頭にも書きましたが、“「初代理事長谷中輝雄さんが何をしようとしていたのか」ということに想いを馳せながら”“これまでと大きく変えずに”“皆さんと”運営していきたいと思えます。特に、仁木守さんには引き続いて事務局の大切な役割をお願いしています。よろしくお願いいたします。実働部隊となる実行委員を、理事の支援を得ながら、少しずつ見直し、新しい方にも加わっていただきながら、次の体制づくりを進めていきます。ゆっくり取り組みたいと思っていますので、皆さん、ご協力よろしくお願いいたします。

日本の精神保健医療福祉は、まだまだ課題山積です。けど、目の前の「こうあるべきだ」に飛びつくつもりはありません。遠いゴールを、緩やかに共有しながら、多様な仲間を認め合い、「ふるさと」とか「とまり木」とか、「プラットフォーム」とか、「パワーステーション」とか、そんな役割を果たせていけたらとイメージしています。協会の歴史をつなぎながら、丁寧につむいできてくださっているネットワークを新しい人たちにも活用していただきながら、誰にとってもほんの少しプラスになるような会であり続けられたら嬉しいです。20年後、「協会があって本当によかった」と思える方が、ひとりでもいたら幸いです。

未熟な私にできること。現時点では本当にわかりません。大好きな協会をなくさずに、次につながるが一番大切なこと、かもしれません。皆さんのご意見をお聞かせください。よろしくお願いいたします。



* 事務局からのお知らせ

① カナダ・トロント ACT セミナー

6月実施予定しておりましたトロントセミナーは、諸般の事情により延期させていただきます。

今後の募集に関しては、本紙およびホームページでお知らせします。参加予定されていた皆様には大変申し訳ありませんが、次回実施までお待ち下さい。

② イタリア地域精神保健視察研修ツアー

本年度のイタリアツアーは、11月実施で企画を進めておりますので、募集開始まで暫くお待ちください。



— 編集後記 —

仁木美知子代表お疲れさまでした。長野先生よろしくお願いいたします。代表が代わり、初めてのトロントセミナーツアーを6月に実施を、と現地と調整をしてきましたが、残念ながら延期になりました。「観光よりも、もっと研修を多く！」といった声があがったこともあり、調整を進めています。これまで以上に実りある研修にして行きたいと思えます。どうぞ、ご参加ください。(m.shiida)

特定非営利活動法人 精神保健福祉交流促進協会 TEL090-1811-7119